



祝創立130周年



平成19年、母校大阪教育大学附属天王寺小学校は創立130周年を迎え、11月1日八尾市民会館プリズムホールにて、創立130周年記念式典が、会場を埋める多数の出席者の中、盛大にかつ厳粛に執り行われた。第二部では趣を一新し、現役児童と保護者を主な対象に、プリンセス天功によるスーパーイリュージョンが催され、会場は大いに盛り上がった。

**平成19年11月1日
八尾市民会館プリズムホール**

附小NOW(4・5面)に記念式典特集



盛大に記念式典

雛松会
ジュニアの会
の
ご案内

平成13年卒～平成20年卒の人

日 時 平成20年3月27日(木)
AM10:00～12:00
場 所 母校(附属天王寺小学校)

※総会・懇親会は2年に1度です。本年度は総会・懇親会はありません。
次回開催は来年4月の予定です。

内 容

- ◎議事
- ◎アトラクション
- ◎年次毎の同窓会



第39号

母校創立
130周年
記念号

平成20年3月20日

雛松会

大阪教育大学
附属天王寺小学校
〒545-0053
大阪市阿倍野区松崎町
1丁目2-45
TEL. 06(6621)0123

<主な記事>

◆祝創立百三十周年………	1面
◆名譽会長・会長挨拶………	2面
◆第31回総会・懇親会………	3面
◆百三十周年記念式典・祝賀会………	4～5面
◆同窓生の近況………	6～7面
◆附小今昔………	8～9面
◆祝辞・回想録………	10～11面
◆年会費納入者一覧………	12～13面

第31回離松会総会・懇親会 Report

錢高会長ご挨拶



98期生(昭和54年卒) 櫻井 忠孝

平成19年4月14日(土)、午後3時半より「ザ・リツ・カールトン大阪」にて平成19年度の離松会総会・懇親会が開催されました。参加者は90名と、例年より少し多めの賑やかな会となりました。11月には創立130周年を迎える事もあり、多くの方々に参加していただける様にと幹事会で議論を重ね、場所は交通アクセスも良く知名度もある「ザ・リツ・カールトン大阪」に、開始時間も今までより早めて3時半からの開会に変更したのが今回の大きな特徴でした。

総会は、離松会会长の錢高会長の挨拶から始まり、滞りなく進行してきました。皆様からのお話で印象深かったのは、130年間に1万人以上の卒業生がいるという事、1万人の思いと伝統が今も脈々と受け継がれていると言う事です。そして西村総務幹事より130周年の記念行事の説明と報告、次に赤尾会計幹事からの会計報告があり、総会は終了となりました。

引き続き懇親会へと移り、こぼれ会の辻本 戊先生に乾杯のご発声をお願いしました。服部副校長からの学校の近況報告では、創立130周年を告知する意味も込めて

屋上から垂れ幕が下げられてるとのお話に、皆も口々に電車から見えたとかバイパスから見えたなどの話も出て、終始楽しい雰囲気の中懇親を深めました。現役PTAコーラス部の方々に課題曲を見事な歌声でご披露していただいた後全員で校歌齊唱となり、楽しい時間はあっと言う間に過ぎ、辻本 節子副会長の閉会のご挨拶でお開きとなりました。

次回は平成21年4月に

開催の予定です。同期生の友人・先輩・後輩の皆さんと誘い合わせて、是非ご出席されますようお願いいたします。

藤永校長ご挨拶



90名の参加者で賑やかに開催!!



「ぼれ会の先生方



辻本戊先生のご発声で乾杯



次回は平成21年4月に開催の予定です。
是非皆様お誘い合わせて出席して下さい。

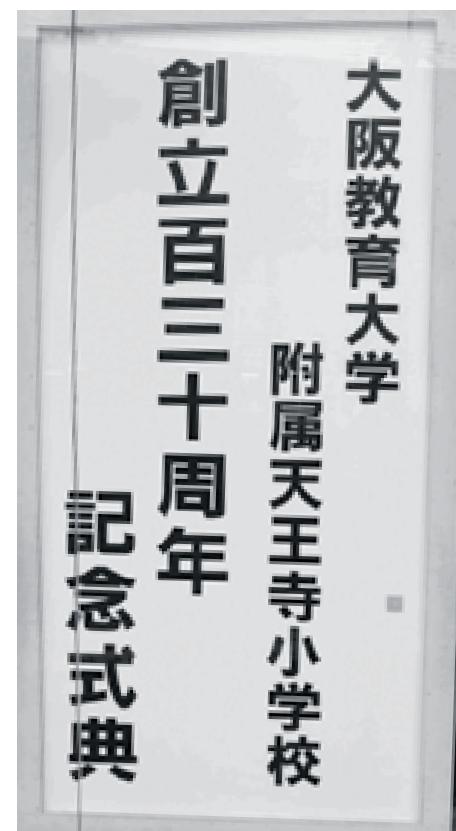
辻本節子副会長による閉会のご挨拶



受付の皆さん

附小NOW近況報告

附天小雛松会担当 片山 雅夫



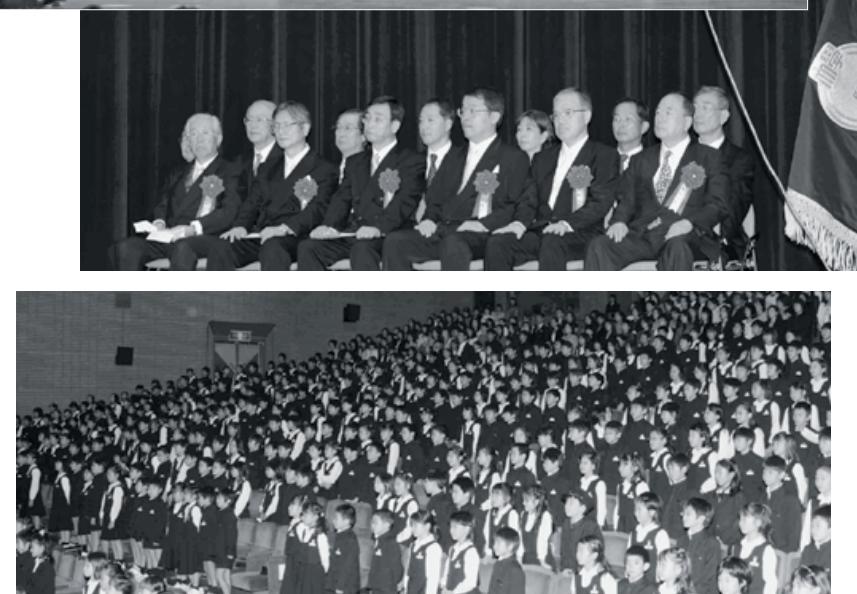
平成19年11月1日(木)に本校は創立130周年を迎えました。当日は八尾市民会館プリズムホールにて、記念式典を行いました。あいにくの天気でしたが、児童と保護者、多数の来賓の方々が出席され、盛大に行われました。記念式典の第一部では、来賓の方々からの祝辞をはじめ、児童代表のお祝いの言葉、本校の教育活動に長年ご協力いただいた方への感謝状贈呈など、一つ一つの次第を厳かに行うことができ、参加者全員による校歌斉唱で幕を閉じました。また、記念式典の第二部ではアトラクションとして「引田天功スーパーイリュージョン」が行われました。あのテレビ等でも有名なプリンセス天功さんが本校のためにスーパーイリュージョンを見せてくださるということで、開演前から児童たちはわくわくして待ちきれない様子でした。途中にトークを交えたり、児童を舞台に上げてマジックをしてくださったり、会場は大いに盛り上がりました。

第三部は場所を移し、午後6時より西梅田のザ・リッツ・カールトン大阪にて創立130周年記念祝賀会が開催され、約320名の出席者で大盛会となりました。

また、130周年の記念として雛松会より図書を寄贈して頂くことになりました。図書室内に「雛松文庫」として設置する予定で、現在書籍の選定を行っているところです。在校生には大切に扱ってほしいと思います。

○ 第1部 ○

- 校 歌 齊 唱
- 感 謝 状 贈 呈
- 児 童 代 表 の 言 葉
- 來 賓 祝 辞
- 學 校 長 式 辞



創立130周年

という節目の年を迎えて

○ 第2部 ○ アトラクション 引田天功スーパーイリュージョン



○ 第3部 ○ 記念祝賀会



大阪教育大学附属天王寺小学校校歌

大阪府天王寺師範学校附属小学校校歌

沿革

附小今昔

校 歌

三本校の沿革

- | | |
|----------|---|
| 明治10年7月 | 中之島常安町に新築された大阪府師範学校内に附属演習小学校が設置され、15日開校式を行なう（本校の創始） |
| 明治13年2月 | 師範学校の法円坂移転に伴い、附属演習小学校を東区大手通1丁目私立森小学校（旧官立大阪師範学校附小の後身校）内に設置 |
| 明治14年4月 | 師範学校の中之島移転に伴い、中之島4丁目の公立田箕小学校を演習小学校に充当 |
| 明治15年9月 | 中之島の師範学校内に附属小学校設置 |
| 明治16年3月 | 附属小学校新築落成 |
| 明治19年7月 | 大阪府尋常師範学校附属小学校と改称 |
| 明治19年9月 | 尋常科・高等科の二科設置 |
| 明治31年4月 | 大阪府師範学校附属小学校と改称 |
| 明治34年3月 | 天王寺区宇治河原町（現大阪教育大学天王寺キャンパス）に新築移転 |
| 明治41年4月 | 尋常科を6ヶ年高等科を2ヶ年とし、大阪府天王寺師範学校附属小学校と改称 |
| 大正4年4月 | 帽章、徽章を変更 |
| 昭和9年5月 | 校舎の改築が施工 |
| 昭和15年4月 | 附属小学校校歌制定 |
| 昭和16年4月 | 大阪府天王寺師範附属国民学校と改称 |
| 昭和18年4月 | 大阪第一師範男子部附属国民学校と改称 |
| 昭和19年9月 | 南河内郡東条村甘南備へ集団疎開（昭和20年8月まで） |
| 昭和21年4月 | 大阪第一師範男子部附属小学校と改称 |
| 昭和22年4月 | 附属小学校高等科廃止 |
| 昭和26年4月 | 大阪学芸大学附属天王寺小学校と改称
制服、帽章、徽章を変更 |
| 昭和26年5月 | 大学の拡充に伴い敷津假校舎に移転（3年生以上） |
| 昭和28年3月 | 阿倍野区松崎町現校地に新校舎第一期工事落成一部移転（5・6年生） |
| 昭和31年3月 | 木造校舎完成（全般児童揃う） |
| 昭和33年3月 | 体育館兼講堂完成 |
| 昭和37年3月 | 新校歌制定 |
| 昭和42年6月 | 大阪教育大学教育学部附属天王寺小学校と改称 |
| 昭和42年8月 | 現プール完成 |
| 昭和42年10月 | 創立九十周年記念式典挙行 |



小学数学



油懸・煙々の繪



校 課



復活した樹の松（田舎横之助）

三服装のうつりかわり

制服



明治時代の服装

昭和7年
規則制定

(冬服)

(夏服)

冬服

夏服

帽子がワッペンになりました。
平成19年4月~

水着



ふんどし



海水パンツと水着



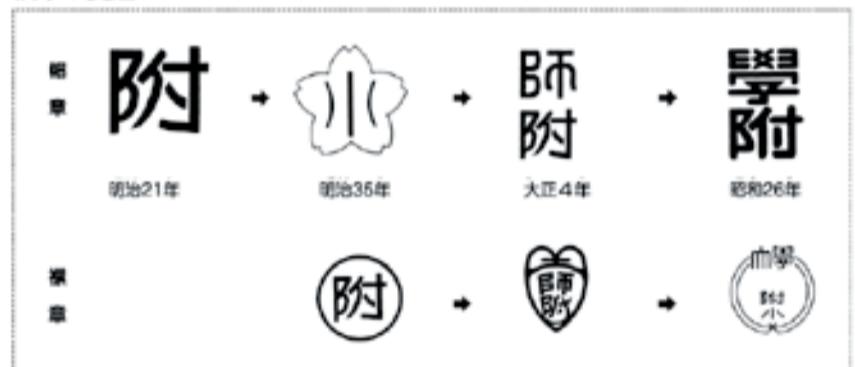
ラッシュガード

体操服



平成6年4月~

校章の変遷



学校安全

附小今昔

服 装

この10年間で、学校安全や安全教育の大切さが年々、声高にさけられるようになってきました。

本校でも子どもたちが安心して学べる学校づくりに日々、努めています。



不審な人に声をかけられたら…

安全な学校をつくるために、この10年間、本校では色々な環境整備にも努めてきました。

その一部をご紹介します！



『登下校通知システム』
カードをこの機械にかざせば登下校の時刻が保護者にメールされます。



2人のガードマンさんが頼もしいね！



いつもありがとうございます！



「非常ブザー」
校内のあらゆる場所に、非常用のブザーが設置されています。



もし、トイレで何かあったら、
このボタンを押しましょう。



交通安全指導・避難訓練の時はみんな真剣！



先生も訓練の時は真剣です！



校舎の外にも、非常ブザーは設置されています。

保健室前の「AED」
使い方も職員は訓練済みです。

本校教職員で、安全教育の本を出版しました。



創立130周年を迎えて

大阪教育大学学長 稲垣 卓

附属天王寺小学校の創始である大阪府師範学校付属演習小学校が、明治10年に創設されて130年を迎えました。当初、付属演習小学校は中之島常安町に創設され、明治34年には天王寺区南河堀町に、そして昭和28年には現在の阿倍野区松崎町に移転しました。中之島での24年、南河堀町での52年、松崎町での54年、合わせて130年の歴史を刻んで今日を迎えました。この間に、平成16年4月の国立大学の法人化に伴う校名変更を含めて、10たびの校名変更の変遷を辿ることができます。

附属天王寺小学校のこのような歴史は、わが国の近代化のなかでの学校教育の発展とともにあったといえます。戦後復興のなかの困難、その後のめざましい経済発展のなか、特色ある学校教育を地域や社会の皆様とともに進めてきました。自主自立の気風、進取の気風、実学と合理的の気風。このような大阪の風土が生み出してきた大阪の学校と教育。附属天王寺小学校が130年の歴史をとおして、大阪の学校と教育に果たしてきた役割の大さきには、測り知れないものがあります。大阪の地にあって、地域や社会の期待に応え、大学と手を携えて初等教育の充実と教員の育成の向上に尽くしてきた附属天王寺小学校。創立130周年を迎えて、附属天王寺小学校のこのような誇るべき歴史と伝統を思い起こし、歴代の校長、教員、保護者、PTA関係者、同窓会「懇親会」等の皆様の努力と献身に、心からの感謝と敬意を新たにしたいと思います。

附属天王寺小学校は19世紀に創設され、20世紀を生き抜き、21世紀を迎えています。今日、わが国は、社会の最優先課題として、学校教育の刷新という新たな挑戦に立ち向かおうとしています。社会の未来、国の未来は教育に託されています。世界のグローバル化、知識基盤社会の到来のなかで、これから社会に生き、その未来を自らの手で築いていける子どもたちのための教育が求められています。大阪教育大学は、新しい時代の教育の担い手を育成するという尊くかつ重い使命を託された大学として、これからも果敢に挑戦を続けていく所存であります。附属天王寺小学校が、本学のそのような使命とともに、教育の未来を先導する学校、地域にあって信頼される価値ある学校として、さらなる発展と充実の道を切り拓かれることを心から祈念し、創立130周年にあたってのお祝いの言葉といたします。

お祝いメッセージ



創立130周年を祝って

文部科学大臣 渡海 紀三郎

大阪教育大学附属天王寺小学校が、本年をもって創立130周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴校は、明治10年に大阪府師範学校付属演習学校として創設されて以来、今まで、百三十年の星霜を重ねてこられました。

その間、多くの優秀な人材を輩出されるとともに、「個が生きる学校」を教育目標に掲げ、初等教育を先導する教育実践や大学と一体となった教育研究等を通じ、我が国の教育界に多大な貢献をしてこられたところです。

古今東西を問わず教育は社会の存立基盤であり、一国の将来は教育にかかっていると言っても過言ではありません。とりわけ義務教育は、国家、社会の形成者となるべき次世代の育成と、一人一人の子どもが一生を幸せに生きるために土台をつくるという二つの目的を併せ持つものであり、すべての教育の基盤であります。

昨年十二月に約六十年ぶりに教育基本法が改正され、これから教育のあるべき姿、目指すべき理念が明らかになりました。今後我々は、昨今の教育界に生じている様々な課題や状況の変化を見据えつつ、この改正教育基本法の理念を踏まえ、未来を担う全ての子どもたちに対して、質が高く、新しい時代にふさわしい教育を行えるよう総力を挙げて取り組んでいく所存です。

そのような中、貴校におかれましては、百三十年の伝統の上に立ち、附属学校の機能を最大限に活かして、新たな時代の教育の幕開けに相応しい特色ある取組を行っていただくとともに、これらを通じて地域社会、ひいては国民の期待に応えていただきますようお願い申し上げます。

最後に、大阪教育大学附属天王寺小学校がこれまで積み上げてこられた素晴らしい歴史と伝統を礎に、更なる飛躍と発展を遂げられることを祈念してお祝いの言葉といたします。

附小の思い出

附小在職時代の思い出

昭和18年～昭和22年

佐野 敏夫

昭和15年1月、附小主事位野木先生の要請を受け、東京高等師範学校（現筑波大学）よりご当校へ帰任。ついで22年4月、学制改革により創立された附属天王寺中学校に転任し、その後、大阪市へ転出するまでご本校でおせわになっていました。

ご当校での始めの頃は、大阪の方が軍国主義の色彩が濃く、朝会などでは児童の多くが休憩を受けていたのに驚いた小生です。

敵機より空襲をさけるための学童疎開が始まり、ご当校は南河内郡の日吉橋へ。男子は着物寮に移りました。

週末の面会日には、保護者が心づくしの弁当を持参していました。小生は一年生を担任し、「面会日の歌」を作詞作曲し、児童らは一生懸命に歌ってくれました。

6年男子組担任の成田先生は児童と共に毎日のように野草を探集していました。

戦果は日本の敗北に終わり、児童たちは家庭へ。

ご当校の在籍児童は若干少なくなりましたが、小生は担任する一年女子組の児童で、オルガンで君が代を上手にひいていましたが、現在は家庭で孫を相手に楽しく過ごしておられるのです？すべては今からすれば重要な体験で、現在81歳に達した小生も決して忘れることなく日々をすごしています。

苦難の思い出と願い

昭和22年～昭和45年

酒井 康晴

私が付小に赴任したのは、昭和22年4月だった。丁度敗戦による教育改革6・3・3・4制がスタートした年であった。付小が属していた師範学校も大学に変わることに伴い、大学としての施設が狭隘となるため、付小が校舎移転を余儀なくされ、校地取得・校舎建設と苦難10年の歳月を刻むことになった。

昭和26年5月からは1・2年生を天王寺校舎に残し、3年以上は大阪の焼校舎を改修・借用して授業を始めた。阿倍野橋から大谷町の敷津校舎までのバス通学・改修しても雨漏りの止まらない教室で、傘を差しての授業など、よく耐えた2年間であった。それだけに昭和26年末に松崎町の校地取得が決まった時の喜びは大きかった。確か4000坪1400万円との記憶がある。当時、校地取得や校舎建設の予算は、PTAと国との折半であったため、長期に亘りPTA役員の皆さんのが金策にご苦労頂いたことなどを思い出す。

その後も、天王寺付小は、附属高校や大学1部の創設なども中核的な力となり、大学校園全体の発展を支えてきたことを忘れないでほしい。同時に伝統的な教育実践・研究の全国的先達として、教育改革の最前線、今後もその力量を充分に發揮されることを信じ、児童諸君の健全な成長を願って止まない。



OBの先生

校舎を天王寺から阿倍野に移転させたことについて

昭和10年～昭和29年

西本 繁夫

何度もお話ししますが、大阪教育大学附属天王寺小学校を天王寺区から阿倍野区に移転させた責任者は私はです。

私は昭和10年から昭和29年まで同校に勤務しました。其の間、昭和10年から24年10月までは教諭で24年の10月15日に始めて同校の教頭を文部省から命ぜられました。

昭和26年4月1日、母校は大阪学芸大学校と名称をかえました。学長は北川久五郎先生でした。

移転のいきさつは次の通りです。

昭和26年4月1日に国立学校設置法が改正され、私どもの母校が大阪学芸大学となった時に、北川学長は校舎は別としても、今までのような三分校に別れて経営していた大学運営を天王寺に総合し、天王寺を本部として教授の研究室も天王寺学舎の中に増設し、更に事務局も天王寺の学舎の中に置き、三分校に分かれて就業していた事務職員もすべて本部事務局で就業させたいと考えされました。

そこで学長はこの考えを大学の学舎にびったり食いついている附属天王寺小学校の校舎をすっかり外部に移転させ、校舎を大学の学舎の一部として使用したいと考えられました。

昭和26年4月8日北川学長が附属小学校に来て、先ず教頭の私に、涙を流し乍ら附属小学校が他の地域に移転し、校舎のすべてを大学に譲渡してほしいと依頼されました。

私は一瞬、このような大事業が私の手で出来るかと考えましたが、附属小学校が大運動場と講堂を自由に使えないことに不満もあったので、学長の意に沿って他の地区に移転することを決意しました。

26年から29年1月31日まで移転の仕事に邁進し、29年3月31日に阿倍野区に附属小学校を設立しました。



昭和16年は附属国民学校でした

昭和16年～昭和18年

白木 實

大阪教育大学附属天王寺小学校は創立130周年を迎えられ、衷心よりお祝い申し上げます。

さて私ごとで御紹介ですが、昭和16年3月は大阪府天王寺師範学校専攻科卒業で新卒として「大阪府天王寺師範学校訓導に任す」と府庁で任命をいただきましたが、当時の附小は「大阪府天王寺師範学校付属国民学校」と改称され、国民学校発足の年でもあったわけです。戦時色が横溢されました。「皇国民の綱成」目標として軍国調そのものでした。高等科1年の担任で、南河堀町の校舎でした。剣道等が正課の中に入っていたと思います。私は6月に徴兵検査を受け、大竹海兵团4月1日に入団が決まりました。昭和16年12月8日に第二次世界大戦がはじまり、入団してしまえば「生きて帰れるかどうかわからない」一日一日を大切に精一杯児童に体当たりの教育をはじめました。死にものぐるいだったことを覚えています。今ここで米寿の祝いをしてもらお、長生きをさせてもらっているのは幸運そのものです。校名はその後も変更がありましたが、有意義に進められているのは有難いことです。

遠足の帰りに

昭和42年～昭和59年

木下 清司



70才を過ぎた現在も、ほぼ毎日のように阪和線を利用して天王寺経由で、仕事場へ向かいます。往復の車窓から見える附小の姿は、一緒に過ごしてきた子ども達への想い出とともに懐かしく想い出されてきます。

教員になって十数年、初めて1年生を担任した時のこと、耐寒遠足で二上山に行きました。途中で休憩が悪くなり、昼食も食べられず下山、当麻寺に着く頃はどうにも我慢できなくなりました。そんな様子を見たからでしょうか、帰りの車中では、子ども達が「先生ここで、ねえや」と話をあけてくれました。

わずか20分余りの「あべの橋」までの車中で寝させてもらったことが、1年生だっただけに、そのころ配りに感激しました。そんな想いやりのお陰で、38年間、1日も休まずに教員生活を全うできたことに感謝の気持ちと暖かい想いやりを忘れられません。

今年4月21日、久し振りの同窓会があり、立派に成長された卒業生と再会できたことに大きな幸せを感じ、附小の卒業生達が、世の中のために役立つ働きをされることを祈念しております。人のためによいことをするのは、やがて自分の幸せにつながることになっていくのですから。

思い出と感謝

昭和43年～昭和56年

奥野 忠昭



先日、学校の前を通ると、創立130周年記念の垂れ幕が下がっていて、ああ、この場所で私もまた何年間教師をさせてもらったのだと思うと、何だか誇らしい気持ちが起こってきました。

私が勤めたのは昭和45年4月から昭和56年3月までの11年間で、昭和45年といえば、安保闘争で世の中が騒然としていた時期であり、また、大阪万博が開催された年でもあります。

世は激動の時期でしたが、学校はいたって平穏で、落ち着いた雰囲気につつまれ、子どもたちは実によく勉強をしました。

思い出すことといったら、学習発表会で先生たちも劇をやり、やんややんやの喝采を受けたこと、射手矢先生の提案で「天王寺教育ノート」を発刊し、附属発の新しい教育方法を発信することを目指したこと、就業時間が終わってから、校庭にてソフトボールに興じ、一日の緊張をほぐし、同時に先生同士の交流の場としたことなど。さらには、教育研究の場を与えてもらったり、大学院へ留学させてもらい、人生を大きく変えるきっかけを作ってもらったり、いくら感謝しても感謝仕切れないほどです。附属小学校ありがとうございました。

変わったこと、変わらないこと

平成2年～平成16年

井上 義則



平成2年度から16年度まで、4年生担任を振り出しに、5・6・1・2・3・4・5・6・2年生、教務主任、副校長3年と14年間お世話になりました。在任中のできごとをいくつか紹介したいと思います。

平成8年、スタンドアローンのコンピュータに代わり、大学のサーバーとインターネット接続されたコンピュータ20台が整備されました。しばらくの間は、ホームページの作り方、電子メールの送り方、授業での活用の仕方など、教官全員で研修を深めました。

平成13年副校長1年目のとき、附属池田小学校で痛ましい事件がありました。教職員による立ち当番、インターホンの設置、警備員の配置など、安全対策にこれまで以上に力を注ぐことになりました。学校の安全神話が一気に崩れ去ったことは、残念でなりません。

年月によって学校の様子は変わっても、個性豊かで、元気いっぱいの子どもたちと、学校教育に協力的な保護者、常に学校を支えていただいている後援会、同窓会のみなさんと、附小が成り立っているのは、今も昔も変わらないことだと思います。附属天王寺小学校のますますの発展を切に祈念しています。

(大阪市立難波元町小学校 教頭)

附属天王寺小学校での8年間を振り返って

平成11年～平成19年

大野 節子



附属天王寺小学校に行き、始めに藤丸副校長先生に言われたことは「学校の研究とは別に自分でテーマを見つけて研究していくように」ということでした。家庭科のことは何もわからなかった1年間は、準備室に置いてある本や指導案や資料等を見たり、大阪市・大阪府の研究会に参加したり、大学の先生に話を聞いたりして、どういうことが今されているのか、子どもたちに何をどのように教えないといけないのかを探る毎日でした。その後、萩原校長先生の安産お守りの力で双子に恵まれ、しばらく学校を離れました。復帰後、廊下で石井先生に「お帰りなさい」と声をかけられ、わたしの居場所はここだったのだと実感してからは、家庭科から考える環境教育を自分のテーマにして研究することができました。そして、平成15年に研究部長になり本当の研究はどういうものかを教えられました。わたしにとっては何もできないつらさと時間のなさに追いつめられる毎日でした。平成19年2月研究発表会家庭科の分科会で家庭科室にたくさんの方が来られたことが嬉しい思い出です。子ども達も今年は小学校1年生です。仕事と子育てを両立できたのも、附属天王寺小学校の厳しさと優しさがあったからだと思います。附小に育てられた私は、幸せです。

(大阪市立難波元町小学校)

附小の思い出

昭和30年～昭和48年

辻本 戊



私が市内より附小に赴任したのは昭和30年。24歳でした。教官室の座席は教頭先生の隣。何処を見ても教育実習で指導を頂いた先生ばかり。当時、先輩後輩の無言の規律があり「おい、お茶、電話」。だから出勤したら教室へ直行。遊戯時も運動場で子達と相撲、ソフトボール。……こんな生活でした。

附属小学校は毎年、研究発表会をせねばなりません。文部省の意向に沿ったカリキュラム（教科指導課程）や指導方法の研究。その発表の会です。生活カリキュラムだ。コア、カリキュラムだ。指導法は、と口角沫を飛ばし、最終電車が出てしまうと宿直室でザコ寝も度々。ふと目をさますと、ふとんの上で、あぐらをかき議論している先輩達の姿に「教師の生きがいは、これが？」。考えたものです。私の父も小学校長でしたが、常々「教え子どもが財産だ」と近くの元教え子と、夜、家で長机を囲んで読書会、俳句会を楽しんでいたのと重なり、それなりに充実した毎日を送っていたからです。

昭和41年、インド ニューデリー日本小学校へ赴任。2年後、附小へ復帰。今年の夏、関西学院中学部の孫が、井戸端や友好のために渡印するのも、少しあは私の影響があるのかも、と、見守っているこの頃です。

20秒の追憶

昭和41年～昭和63年

田中 建司



附小の南側に近鉄電車が走っています。今の勤める関係で近鉄を利用していますので、朝夕、附小の校舎や運動場が通過時に見られるのです。その間20秒位でしょうか。校庭を駆ける子どもや、らせん状のすべり台で遊ぶ低学年児の姿は、昔とちっとも変わっていません。

昭和41年から22年間お世話になった学校です。赴任して初めて担任をした4年生は現在、50歳をこえているのですから、思い出することは山程あります。当時一緒に学んだ子どもたちの顔や表情までも、瞬時に浮かんでくるのです。まだ脳の方は大丈夫だと思っていますが……その間にお世話になったPTAの役員、委員、保護者の皆様、教職員の方々には感謝の気持ちでいっぱいになります。附小は私の人生の誇りでもあります、バックボーンとなっています。

附小にはすばらしい伝統と歴史があり、時代を先進する気迫がみなぎっています。校歌もすばらしいではありませんか。「はばたく心 空ゆけば……ひとすじに……」この透明感と光の美しさ、温かさは新鮮です。創立130周年、おめでとうございます。激動と混迷の21世紀、堂々と教育界をひとすじに邁進され、新しい歴史と教育文化を切り拓かれることを切に願っております。

OBの先生

スポーツやPTA活動の盛んな 附属天王寺小学校

昭和55年～平成9年

齊原 博正



創立130周年おめでとうございます。私は昭和55年4月から平成9年3月まで17年間お世話になりました。体育の研究をしていましたので、臨海学舎と運動会には特に熱を入れていたように思います。臨海ではボートを10艘購入していただき、遠泳では各班ごとに帽子の色をかえて瞬時に人員把握できるように工夫したりしました。運動会では応援団を結成して児童席を紅白に分けたり、金管バンドによる入場行進、一輪車クラブの模範演技・徒競走のスタート位置を個々のハンディを考慮して設定したりしたのをよく覚えています。また、PTAにおいては昭和58年から60年度にかけてソフトボールクラブとバレーボールクラブを開設しました。部員は両方共70名程度でとてもにぎやかでした。

平成5年4月から副校長としてPTAの活性化に取り組みました。PTAの委員会活動して、広報・園芸・レクレーション・図書・文化教室・栄養給食・スポーツ・保健安全・環境美化の9つの委員会を発足したりしました。

平成6年度には、新1年生より定員を114名から120名にしり、PTA新聞「さわやか通信」を創刊したりと教職員全員で学校の活性化に取り組みました。

これからも永遠に続く附小天王寺小学校の教育を応援しています。 (八尾市立西山本小学校 教頭)

教育の原点

昭和63年～平成10年

高砂 和滋



大阪教育大学附属天王寺小学校が、開学130周年を迎られ、心よりお喜び申し上げます。

私自身、昭和63年から10年間勤務させていただきました。10年間で、400名以上の子ども達の前で教鞭をとりました。その間、多くの方々と出会えたことは、私の大きな財産となりました。

附小を離れてからもう10年経ちますが、いまだに「高砂先生ですね」と街中で声をかけられることがよくあります。直接教えていない子や保護者の方まで声をかけていただきます。そして、附属天王寺小学校のことを語り合うと、相手も私もみんな笑顔になるのです。それは、附属天王寺小学校では、教職員と保護者が一体となり、児童のために学校を作り上げていったからだと思います。日々の授業や、スキー教室・学芸会・スクールキャンプ等の行事を通して、人と人の深いつながりができると思います。笑顔で小学校時代の思い出を語られる方から、学校に対する誇りと愛着が感じられます。

すばらしい大阪教育大学附属天王寺小学校の、今後ますますの発展をお祈りしています。

(大阪市立今津小学校 教頭)



草創期 ～附属小学校の思い出～

昭和10年卒(鶴松会副会長)

瀧藤 尊教

聞き手 昭和17年卒

鈴木 享

鈴木 今、本校の教育目標六項目を刻んだ記念碑を拝見して来ました。幼少の頃からこんな立派な方針で育てられたら、どんなに素晴らしい少年少女が次々と生み出されて行くことかと感激しました。あの碑文は瀧藤現下のご執筆と承りましたが。

瀧藤 そうです。創立百周年記念事業の一です。

鈴木 各々の尊重が先ず強調されていますが、何と言ってもそれが出発点ですね。それが確立され、本当に他人の個にまで及ぶ時、当然、協力や実践の基盤にそれが現れ、その成果が豊かな達成感、更には強固な自信に繋がり、それから先は教えて教育を抜つまでもなく、自発的な自己修練や啓発を重ねる事によって、社会有用の人材となって行く事と思われます。これは単に、ふと思いついた総目を六項目に書き連ねただけのものではありませんね。

瀧藤 どうも、そこまで読んで頂ければ嬉しいことです。

鈴木 三十年前に創られた総目ですが、今も入学願書の学校紹介と言いますか学校要覧に「本校の教育目標」「個が生きる学校」として紹介されていますね。当時の先生方、鶴松会の先輩諸君に敬意を表します。

今日は現下から色々なお話を伺う機会を頂いておりますが、小学生時代、お寺の息子さんとしての意識は、瀧藤 そうですね、折角の機会やから、「村しろ難しい勉強一杯して、特別偉い人を作る学校やから心身共に並の子供では入れない難しい試験があった。大人でも考え込むような問題が出るとか」当時、世間の噂、専らの



100周年記念石碑

学校でしたから入学した時は嬉しかったですよ。周りの人の見る目が変わりましたね。お寺に来られる方から「附属に入ったんだね、偉いなぁ」と褒められるものですから、最下級の時から既にそれは強く意識していました。ランドセルも特製です、背革に「附属」と大きなマークが焼付けた様にデンと据わってますし制服、朝帽ですから擦れ違う人がみんな振り返るんですね、そのカバンが齊したプライドは何より強烈でした。変なことは出来ませんものね。

附小の思い出



数(かず)への興味と、 科学雑誌の山に囲まれて

昭和17年卒(鶴松会副会長)

金森 順次郎

創立130周年おめでとうございます。

わたくしは今、財団法人・国際高等研究所という人文科学、社会科学、自然科学という学問の区分を超えた研究、例えば、歴史に地理や気候という環境がどのように影響したかという問題や、建築や機械加工で名入芸と呼ばれる熟練技術が人間の心理や社会環境などのような関わりがあるかという問題を分析する幅広い研究を行っている研究機関の代表を務めております。

そんな立場でもあって、日本の科学行政にも関与しておりますので、青少年の教育についての意見や講演を求められる機会も多くあります。そんな折りに、話のテーマを考えておりますと、追々、附属小学校にての思い出と重なって来て、時には独り“にっこり笑いながら”思い出に没ってしまうことがあります。

間もなく中之島の大坂科学館で「科学の不思議を体験しよう」との、大規模なファミリー科学イベント「不思議と遊び - 青少年のための科学の祭典 - エイエンス・フェスタ」が開催されますが、ユニークな科学実験や工作教室、分かり易い解説などを通じて科学の不思議や面白さを体験することが出来るので大変な人気と関心が寄せられております。

それで、その前触れを求めるままに次のように話そうと思いつつも、つい子供の頃の色々なことを思い出しました。

「子どもたちに、身近な世界から課題を見つけて取り組むことが大切だ」と切り出し、そして自分の今日に至る経過を。

=先ず科学との出会い=

私にとっては父が若い頃に購読していた「科学画報」という雑誌が宝の山で幼年期から小学生時代を通し、訳が解らないままページを埋っていたし、数には強い関心があって万葉の単位にも興味んでいました。どこまで教えるべきがないことに気付き、不思議な気持ちを感じたものです。自然と数字の世界にひき込まれていたのです。小学校の授業でも、鉛筆算や旅人算など教科書にある方法とは違う解き方が浮かんできて、独自の回答をするので先生を少々困らせていたかも知れません。この小学生時代は日中事務が始まっていますが、光に包まれた平穡な時期として思い出されます。同級生には大学教授や先生になった者が9人もいますが、実業界での成功者も多く、今も仕事の別なく親しく付き合っています。集まるとき度々あった平子先生の思い出話になって、先生は歴史がお得意であって昭和十年代にしては神話的な授業でなく、伸び伸びと育ててくださいました。或る時、草木の歴史についてクラスを開設して授業を分けて討論させようと思い立たされたが、皆、開設を希望したので断念された事もありました。ただ数学はお得意でなかったのが私が新しい解き方を探

鈴木 幼い頃は、そういう外型から入るもののが大きいんでしょうね。

瀧藤 四年生の二学期頃から次は難問中学校受験でした。いろいろと有名校情報が親たちの間で出回っており、私の通知簿成績では危ないかも?という父母の診断、辛い母親の友人が家庭教師を引き受けくれましてね。一对一の厳しい指導を受けました。これで得意科目を中心に自信を深めました。

そうや!先生の家に行きますと美味そうなお菓子がお皿に盛ってあるんです。食べたいけれど欲しいとは言えないしね。ついに一度も手を出せなかっただので、あの時、食べたかったなあとありありと脳裏に残っていますよ。(それは凄い集中力の何よりも訓練やな。笑...) 現在の娘(現役) 母親は実に見事な私の教育チームを作り上げたと思います。一日の勉強の終わりは勿論、夜になりますが、私が勉強している間は母も絶対に寝ません。傍らに居て寝なべをしています。「心配しなはんな、お前が起きている間は寝られまへん」と、ずっと座って寝いるものではあります。私は寝て来ても、然狂的な応援團に囲まれているようなもので、気を緩めるわけにはいきません。寝たら勿論ぐっすりと寝込んで終って。朝になら母は私の身体を摩すって起こしてくれます。それで気持ち良く目覚めて迷路せずです。小学校は苦勞でした。

その点、父の方は大分違っていました。わたしが得意したのは小学校三年生の時ですから、植家通りにはよく連れて行かれ、読経も一緒に勤めました。それ自体は机にむかっての勉強の見抜きでしたが、しかし長時間の正座ですから足が痛くて叶いませんでした。

担任の岩田先生の熱心なご指導も忘れられません。当時は先生のお宅へ遊びに行ったことも、鈴木 平子先生には日曜日に私を連れて魚釣りに、確か今でいうと大和路線の河内堅上駅の大和川で、その頃は川幅も狭くて自然のままでした。



前にお目に掛かった時に、ボタンの貝殻の話をお聞きしたことがありました。下校時の楽しみ、遊びの一つでしたようでしたが、私の時代もやはりと思い出し、小さなボタンが瞬間に、きらびやかな反射を内蔵した魔法の逸品がパッと現れる、その頃は市電道も車は余り通りません、荷物を積んだ牛車が馬が引く荷車ぐらいでしたからね。まあ危険も少なくて。

瀧藤 そうでしたなあ。学校の近くに市電の通る広い市道があり、そのレールを越して帰るのですが、学校の前には貝殻からボタンを作る室内工場が数軒ありました。出来たボタンを水洗いして道路脇に陽干してあるんです。毎日そこを通る友達と素敵な遊びを思いつきまして、ボタンの幾つかをそっと手先で拾って、それをレールの上に並べてね、市電の来るのを見守るんです。電車の通ったそのレールの上には瞬間に細やかな粉末となってパッといろいろな色を発したそれこそ宝石のような輝かい粉末が飛び散って、友達と歡喜を挙げて、何時の時代も同じでしたなあ。何故か今もある美しい貝殻の色が目に浮かびます。一寸指先に摘んで持ち去った想戻心、罪意識も未だに去らないのでしょうか。

鈴木 今は市電も無くなりましたし、小学校も駅やかな方に移りました。

この後も、瀧藤尊教現下は四天王寺管長、同志院佛教大学学長として、また鈴木 享さんも国立大学・教授、私立女子大学の文学部長(文系にわざと受賞)でしたので、教育論の話が続きました。

卒業生

案しても面白目には取り上げて貰えなかったことも、師範学校から実習に来ておられた教生の先生とよく算術の話をしたことも多い出します。

大学では物の性質を物理と化学の両面から考える物性物理を選びました。どうしたら物質の磁性が生まれるかという理論を確立することに夢中になりました。鉄やコバルトなど特別な金属元素が持つ強い磁力をテーマに選び、原子や電子のレベルで磁気が生じる仕組みを解明しました。でも、使うのは紙と鉛筆だけで、どうも実験は苦手で、磁気的性質を変えるために、当時は実現できないとされていた強い磁場を仮定した最初の理論から、化合物の磁性を決める一般的な規則の発見、合金の磁性から原子の並び方まで決める理論など、独創的なアイデアだと思っています。多くの成果が世界的に認められましたし、日本で開発された世界最強の磁石の仕組みを理論的に説明したり、磁性と電気伝導を結びつける新しい物質についての理論的な見通しを立てたりと少しは役に立っています。

今まで自分の実力が評価され必要とされるのは研究者として有難いことだと思っております。

=子どもたちに伝えたいこと=

科学は決して万能ではありません。寧ろ、世界の殆どは解明されていない。随闇だらけの状態です。その一つを自分の手で解明できれば、何とも言えない幸福感に満たされます。答えは決して一つとは限らず、教科書がすべてではありません。決まった考え方や他人の意見に拘ることは、独創的なアイデアの妨げにもなります。どんな身の回りの出来事にも関心を持って疑問を喰め抜け、ノートを作って、自分ならではの見方を育てましょう。簡単なことではありませんが、人生の本当の楽しみを見つけられるはずです。

記・金森さんの研究課題は私たちには一寸難しいので説明を聞いても直ぐには「ああそうか」とはいきませんが、国際的なコミュニティにおける日本を代表する研究者として、国際協力と進歩の発展に大きく貢献した。と本で読んだことがあります。

又、金森さんは、平成十四年正月の『講書始め』に天皇陛下の御前で「物質の磁気」と題する演説をされました。



雄松三代、四代目は……

昭和21年卒

竹谷 正

私は兄弟4人の長男だったが、亡父が附小出身なので附小を受験することとなった。幼稚園で模擬テストの如き練習をやって下さったし、本番の入試では猫が魚を運んでいく絵4枚の順序を並べる問題が、内緒をすぎた今になっても憶い出される。

当然第3浪も附小の後輩になった。家が比較的学校に近くて、徒歩通学だったが、電車通学の友人が定期券を握つるして持っているのがうらやましかった憶い出もある。

私は昭和21年の卒業で終戦の翌年なので、卒業謝恩会といつても赤版やお饅頭などは全く存在しなくて、持ち寄ったふかした手で大きな茶碗からお茶を飲んだ記憶がこっている。

父の入学時には生徒が定員に満たず、小使いさんが手持ちの籠を鳴らして学童を集めて選ったというエピソードはきいたことがあるが、謝恩会や卒業式の話はきいたおぼえがない。

私は3人の子宮に恵まれ、末の次女のみ学業は遅ったのに抽選で落とされたが、上の二人は附小にお世話をになった。かくて、親、子、孫三代の雄松会員となつたのだが、こういう御家庭は他にも多々ある気がする。

父は岡山医専の出身で、私も長男も大学院まで修んだので、長い学業生活だと思うが、小学生時代というのは学業生活のスタートだし、そのあと色々学校関係の恩師にも遇りあえ、本業では大阪市大眼科教授だった故池田先生や、文学の方の恩師の故藤澤恒夫先生は自分の人生を形成する上での柱になる恩師だが、小学生時代の恩師はもっと原始的とでも云いたい。学業だけでなく人格形成のスタートを創っていただいだ気がする。

附小でお世話をになった長男も同業となり、ニューヨーク州の客員教授で招かれたりしたせいで結婚は少し遅れたが、どうやら末年には内孫に恵まれそうな状況となっている。

長男夫婦がどういう方針の教育を選択するのか私には判らぬし、生まれてくる孫にそれだけの能力がなければ仕方がないが、幸運も伴って雄松会員の末に加えてもらえたから、雄松会四代目が誕生するわけで、今から夢みていい気はするが、それまで当方の生命の方が保つかどうかである。

親、子、孫、曾孫という四代はさすがの雄松会員でも指を折れるくらいしか居られないはずで、ひょっとそういう状況になり、まだ当方の寿命ものこっていたとしても、どれ程頼むかろうと今からニヤニヤしている。



一番最近出版したミステリーの本です



附小創立130周年について

昭和13年卒

甲佐 史郎

創立130周年おめでとうございます。130年と言えば想像もつかない程の長い年数ですが、創立時の明治10年にはかの有名な西南戦争があったという、そのドラマティックな幕開けにも感興をそそられます。

私が大阪府立天王寺師範学校、附属小学校尋常科を卒業したのは昭和13年（1938年）3月、約70年前のことですが、これも思い返してみると随分昔のことになります。生まれ育った所は大阪市住吉区（現在阿倍野区）松崎町2丁目で大鉄電車（現在近畿日本鉄道）のあべの橋1号踏み切りの南100メートル、庚申街道沿いの所で、丁度附小卒業まで居りました。從って学校への行き来は大鉄の踏み切りを越えて4、50メートル行くと着替（国際）の鉄道、関西本線と城東線を越える鋼鉄橋があり、我々はその橋を黒橋と勝手に呼んでいたが、関西線の蒸気機関車の煤で黒く汚れていたからでしょうか。庚申街道はその頃新しく開通した阪和電鉄（天王寺一和歌山間の快速電車）の路線に阻まれて、橋の北詰から線路の北側まで幅2メートルのトンネルがあり、わずかにそのあり場所を示しています。黒橋を渡った所で右へ（東へ）坂道を下り、そこから阪和電車の線路をくぐるガードを北へ抜け学校まで200メートルと言う近さでした。

私は兄二人と妹が一人いまして、私を含めて4人全てが附小にお世話をっています。長兄泰彦は昭和6年（1931年）、次兄廉二は昭和9年（1934年）、私は昭和13年（1938年）、妹玲子は昭和19年（1944年）にそれぞれ卒業しております。この様に兄弟姉妹が同じように附小の出身であると言う例は、附小の名簿を開いてみるとすぐに判ることで、その外親子代々というのも珍しくはない。皆さん良くご承知のことだと思います。

子どもの時は、兄達と同じ学校を出たと言うことに何の不思議も疑問も感じないでいたが、今になって考えてみると、義務教育である小学校の選定を、何のためらいもなく、どの子もこの附小に預けて当然だと判断した両親の考え方、今はしかとしたことを確かめるべくも無いが、素晴らしいことだったと思います。恐らく自分の子どもを附小に託そうとされた親御さん方は同じような考えであったろうと思います。今になつて親の有り難さを噛み締める思いです。

私は教育の専門家でもなく、既に社会の中で何の手伝いも出来ない一老人に過ぎないのでですが、最近の世の中、子ども達を取り巻くニュースを見聞きするにつれて、小学生の時期の育て方と言うか育ち方のことが気になって仕方がありません。附小は130年にわたって世の中のリーダーとして、小学校教育の実践、研究に描るぎない成果を挙げてきました。その歴史の素晴らしいこと、伝統の重さ。私はいうまでもなく、そのお陰で今の自分があることを感謝しなければなりません。

勝手な言い分であるが、関係者の皆さんにこれからも100年、200年と附小にあって、子ども達の文えとなり、素晴らしい日本の子ども達を育てていってほしいと思います。

附小の思い出



創立130周年にあたり

昭和42年卒

阿南 孝也

創立130周年おめでとうございます。46年前、私が入学した頃は、旧校舎では石炭ストーブが使われていた時代でした。今思い出しても、高野山林間学舎での肝試しや、白浜での臨海学舎、耐寒足など、懐かしい思い出が一杯つまつた小学校生活でした。

低学年の頃、私はやんちゃでいつも先生に叱られていきました。授業中おしゃべりが過ぎてよく立たされました。あるとき、立たされた者どうしでまだしゃべっていて、見かねた先生が私だけを校長室に連れて行きました。初めて入ったその部屋で、校長先生が笑顔で話しかけてくださったことは、幼い私にはとても驚きました。それは50を過ぎた今になっても度々思い出す光景です。その日以降、おしゃべりも減って、授業にも真剣に取り組むようになりました。校長先生も担任の先生も、本気で接してくださったからだと思います。その私が校長となり、問題を抱えた生徒を校長室に迎えて話をすることができます。私がかつて叱られた時のことを思い出しながら、附属小学校の校長先生のように、厳しく真剣に、そして暖かく指導するよう心掛けています。

3・4年の担任は美術の先生でした。20センチ角位の大きさの石に、のみと金づちで動物を彫ったことを覚えています。日によっては何時間も図工の時間が続くこともあります。物事に集中し取り組むことの大切さと、根気強さを私たちにお教えくださったように思います。6年生のときは、逆上がりができるまで放課後特訓を受けました。先生からのアドバイスのお蔭で成功したときは、心底うれしいものでした。

私は、小学校時代、暖かく指導し、厳しく叱ってくださった先生方に出会うことができました。また、多種多様な行事を通じて、いろいろなことに興味を持ち、考える習慣が身についたことは一生の財産となったと思います。

今の日本は教育熱心で、子どもの教育にお金と時間をかけています。しかし、指示待ちの学生、決められたレールの上しか進めない若者が多いと言われます。彼らが取り組まなければならない課題は、少子化や環境問題など、容易には答えの見つからないものばかりです。失敗すればその原因を考えて再チャレンジする力が求められていると思います。

附属天王寺小学校が、今後とも、自ら考え行動する力を持った有為な青年を世に送り出してくださり、益々発展されることを祈念いたしております。

卒業生



私の附小時代、そして…

昭和29年卒

塩崎 勝彦

創立130周年おめでとうございます。

まず、いくつかの大きな変化がありました。私の附小時代について述べます。私は昭和23年に大阪芸術大学（現大阪教育大学）附属天王寺小学校に入学しました。私の場合、地元の公立小学校よりも近い学校で、通学は至極便利でした。入学したときは附小は大学の校舎の一部にありました。1年生の終わりに学校からいただいたアルバムの表紙はなぜか「大阪師範学校男子部」となっていました。入学したときは私服でしたが、3年生のとき制服、顎帽、制カバンになりました。4年生のとき、大阪府の敷津小学校（当時、廃校になっていた）へ移りました。市電で通学。はじめて持った定期券が嬉しくて…。ただ、この校舎は、長い間使われていなかったからか、雨漏りがひどく、また、戦後すぐのためか、瓦礫が運動場の隅に沢山ありました。5年生のとき、現在の場所に移りました。当時の新校舎は5mほどの土盛りの上の木造2階建てでした。

5年生のとき、特別学級ができました。特別学級は2学年合同で16人の学級でした。教育研究の一環として設置されたと思います。特に印象に残っている行事について述べます。1年生のときの臨海学校はハンモック（死語？）で寝ました。又、冬には兎狩り、6年生のときのスクール・キャンプは運動場に張ったテントで蚊と戦いながら友達と夜を共にしました。

私の小学校時代はほとんどが土の道路、車もほとんどなく、近所の友達と日が暮れるまで遊び、夜は勉強の毎日でした。今の小学生は遊ぶ友人、場所、時間がなくかわいそうに思います。

又、今では考えられないことと思いますが、6年生のとき、テストの後、毎回席次順に座席が決まっていました。

私は大学卒業後、府立高校に勤務の後、15年間、姉妹校の附属高等学校平野校舎で教鞭をとっていました。平成元年に附高を退職して現在の私学に勤めています。現勤務校では毎年数人乃至十数人、大附小卒の後輩が入学します。頼しく思いますが、本当に喜んでよいのか…。塾に頼らずに自分で考え、自分で行動できるような生徒であって欲しいと思います。

天附小の益々の御発展を御祈りします。



エンジニアから見た社会変化

昭和63年卒

島田 尚往

電気メーカーのエンジニアとして生計を立てている筆者は、19年前の1988年に附小を卒業した。小学生時代の日常を思い出してみると、現在に至るまで実にいろいろなところで変化があったことがわかる。あの頃、電車にはエアコンがなかったし、天王寺駅にMIOはまだなかった。理科の実験ではまだ“石縛つき金網”を使っていた。土曜日は毎週、授業があった。これらが変わってきたことは19年の間の社会変化を反映している。

さらに、筆者は今現在の社会変化がこれまでよりもめまぐるしいものになってきたと実感している。社会人になって、より直接に変化に対応しなければならない立場になったこともあろうが、実際に変化の速度も上がっているのではないだろうか。エンジニアとしては、市場の変化にすばやく追隨した製品開発が求められるし、サラリーマンとしては、成果主義や確定提出年金の導入といった変化に対応していくねばならない。変化への対応には努力が求められるが、変化自体は概ね、進歩や発展と呼ぶべき好ましいものが多いと思う。

高等教育や就職をとりまく状況も変化した。進学校から有名大学に入学すれば倒産しない大企業に就職でき、終身雇用の下で年功に応じて出世できるというモデルは、電気メーカーではすでに崩壊しているか崩壊しつつある。以前は有名大学からの推薦があればほぼ間違いなく採用選考をパスできたが、今はそうではない。入社後も実力がなければ解雇まではされないにしても、待遇は向上しない。世界的競争にさらされている企業は実力のない社員を養う余裕はないのである。こういったグローバル化、自由化の波は、遅かれ早かれ日本の多くの分野に達するであろう。

今の在校生が大人になる頃にはどの分野で活躍するにしろ、今以上に学歴や肩書きよりも実力が重視される社会になっているだろう。社会の第一線にしっかりとした人材をどれだけ送り出せるかで、日本や世界の将来は決まると思う。筆者は諸先生に附小でしっかりとした初等教育を受けさせていただき、高等教育以降へうまくつながっていったと思う。今年で実に130年にわたり附小が日本の初等教育の一角落をしっかりと担ってきたことになる。このことに敬意を抱くとともに、今後も引き続きその役割を果たし続けていってほしいと願う。



小学校の想い出

昭和53年卒

田中 俊恵

「小学校の想い出」ということで原稿を依頼され、気軽な気持ちで引き受けたものの、なかなか筆が進まないでいる。私を信頼して原稿を依頼してくれた同級生には、本当に申し訳なく思っている。

それにしても、「40歳代を代表して」とのこと。確かに、附小を卒業してからもうすぐ30年。何年か前に同窓会で久しぶりに会った同級生は、子どもが附属に通っていると言っていた。月日が流れるスピードは年々速くなっていくけれど、私が附小に通っていたのは遠い昔のことだ。

附小というと連想するものの一つに制服がある。転勤で20年ぶりに大阪に戻ったとき、電車の中でたまたま附小の生徒を見かけた。特に女子は制服だとすぐわかる。何とも照れくさい制服だけれど、あれをかぶっていたときは、子どもながら無意識のうちに背筋が伸び、附小の生徒として恥ずかしくないようにふるまっていたような気がする。そう言えば、小学生の頃によく、私の制服を見た人が、「附属の子、こっちおいで」と言って電車で席を譲ってくれた。私は背が低かったから、ラッシュの電車の中ではとても助かった。今でも大阪の人たちは、附小の生徒にそういう優しい気持ちを持ってくれているだろうか。今は、見知らぬ人に声をかけられてもむやみに言うことを聞いてはいけないと子どもに教えなければならない時代だから、こうした光景も見られなくなっているのかも知れないが、あの頃私に声をかけてくれた人々は、地元の学校に通う子どもたちを見る近所のおじさん、おばさんのような気持ちで私を見ていていたのだろう。いつまでもそのような暖かいふれあいがある大阪であってほしいし、附小が大阪の人たちにとってそのような存在であってほしいと願う。

昨年から3年間の予定でオーストラリアの首都キャンベラに勤務している。社会に出てからずっと忙しく過ごしてきたが、当地ではのんびりとした環境の中で落ち着いた毎日を楽しんでいる。先日、近所の店で、「OSAKA」と名付けられた桜の香りのキャンドルを見つけた。附小に入学し、附中・附高に進み、その延長線上に今の私がいる。キャンドルの香りの中、満開の桜の下で附小の制服をかぶった自分の姿を思い浮かべながら、附小から始まった様々なご縁に感謝し、出会った方々の幸せを祈る。

キャンベラは今が春。あちこちで桜が満開に咲いている。

附小の想い出



夢ひとつじに

平成12年卒

南野 太志

～はばたくこころ 空ゆけば～

附小の校歌は、10年たった今でも忘れてないものです。その校歌と同じく附小で過ごした「時」、出会った「友達」・「先生」は、忘れゆく昔の記憶の中で鮮明に残っています。それだけ、附小で学んだ物事・出会った人々は、僕の人生にとって大きな糧となっていると思います。

現在、小学校は多くの問題を抱えていると言われています。附小も決して例外と言えないのではないかでしょうか。けれども、附小の生徒は、一人一人が確固たる自分をもっていて、なおかつ話し合って解決する力をもっているため、問題を自分で解決することができると思います。現に、僕が附小生であった頃も問題が生じましたが、担任の先生も含めクラス全員で話しあって解決したことがあります。このような自己解決のできる生徒が多いのは、附小の伝統ある教育のおかげではないのでしょうか。勉強はもちろんのこと、勉強以外の人間教育、何事にも果敢に取り組ませてくれる教育のおかげで、生徒一人一人の個性を伸ばし、自立した人間性を作り出すことができたのだと思います。その結果として、僕の小学生の頃の友達は、日本の将来を担うであろう友達から、音楽で生計を立てようとする友達、大学に行かずに自分の夢を実現しようとする友達まで、多種多様な友達がいます。僕は、自分の夢、つまり自分の進むべき道筋の土台を固めてくれる附小の教育に感謝しています。

「夢ひとつじに」

これは、僕らの卒業アルバムのタイトルです。この言葉通り、附小の教育は、僕らの「夢」をひとつじに追いかけることを応援してくれる教育でした。130周年を迎えた今でも、附小生の夢を応援し、附小ならではの教育で、これから直面するであろう問題に自ら立ち向かい、解決することのできる、自立した生徒を育て、様々な方面に精通した人間を創出してくれるこことを願っています。



110周年卒業アルバムより

卒業生



附小とは

平成10年卒

白江 恭子

「飼育小屋があるからここがいい」と、当時10倍だった競争率の中、附小を受験した私は、幸運にも今、その卒業生です。今思うと呆れてしまう安易な志望動機で申し訳ないほど、附小では貴重な年間を過ごしました。

飼育小屋に入りたくて入学した私ですが、飼育係は4年生。1年生の頃は外から見るか、頼んで中に入れてもらうしかありませんでした。そんなとき興味を持ったのが一輪車でした。上級生の方がスイスイ乗っておられるのを見て、「私もあんなふうに乗りたい！」と、毎日怪我をしながらも、休み時間になると走って練習しに行きました。少しずつ乗れる距離が増えていくのが嬉しくて、友達と手をつなぎながら運動場を1周できたときは飛び上がって喜んだのを覚えています。そして5年生になり、念願の一輪車クラブに入部し、運動会でのパフォーマンスではピンク色の傘を持って駆け回りました。その時ペアになって手をつないだ友達とは大学も一緒になり、今では旅行にも行く仲です。

附小では色々なことに挑戦しました。一輪車に始まり、応援団、金管バンド、朝礼台での準備体操、毎年1年間に100冊以上本を読む、等々。

私は一度、藤倉先生に頭を叩かれたことがあります。今では“体罰”といつて問題になるのでしょうか。その時、私はそのおかげで反省できましたし、怒られたことが恥ずかしく母にも言えませんでした。両親もよく言いますが、先生たちが生徒を叱るとき少し叩いたり、頬を引っ張ったりするのはありえることだと思います。子どもたちを任された先生方が、子どもたちへの教育と責任で行われることなのだから、当たり前のことだと思うのです。現に私たちの学年の担任をされていた西村先生は、保護者の前でそう説明してくださいました。両親は附属天王寺小学校の先生方をとても信頼していました。

最近話題になっている“いじめ”的問題も、附小にはありませんでした。もちろん小学生ですからケンカや「私、あの子嫌い」はありました。今、いじめについて調査している友人がおり協力した際、私のそれに関する記憶が全くないのに驚いていました。附小では、どんな子もそれぞれの個性が受け入れられていました。小学生の頃から社会では当然のことが、伝統と先生方によって教えられていたのです。

附小での想い出、感謝は書ききれません。卒業生である父、2人の妹も常に附小生だったことに誇りを持っています。附小とは、そういう場所です。



充実していた6年間

平成15年卒
柴田 美帆子

私が附属天王寺小学校を卒業してから、もう5年が経とうとしています。附小での出来事はつい昨日の事のように思い出されます。

ちょうど私が入学した年に、附小は120周年を迎えました。伝統のある学校。それを物語るような古びた校舎が、私は大好きでした。密度の高い6年間から学んだ事が、今の私をつくっていると言っても過言ではありません。それほどまでに、私の中の附小の存在は大きいのです。

今から12年前…私が附属天王寺小学校に入学する前、私は調査小屋の横の門から学校の中を見ていた事がありました。しばらく覗いていると、一輪車に乗った二人の女の子が近づいてきて「ここ受験すんの？頑張ってな！」と言ってまた校庭に戻って行きました。私の目には二人の姿が鮮しく映りました。それから2年、初めて私は一輪車に乗りました。今でもはっきりと覚えています。両手を前に突き出し「もうちょっと！ここまでおいで」と一步一步下がって練習に付き合ってくれた友達の姿を。隣席まで、初めて自力でこげた時の感動は忘れられません。小学校5年生になって、私は金管バンドと一輪車クラブに所属しました。5・6年生の運動会では、金管バンドの演奏も一輪車クラブの演技発表もやり、とても充実していました事を思い出します。お昼ご飯を食べてから、金管バンドの演奏をし、その後すぐに一輪車クラブの演技をやり切った時のなんとも言えない気持ちの良い疲労感は、今でも忘れられません。本番に向けて、朝早くから友達と隠ましあってトロンボーンの練習をしたこと、休み時間や放課後も一輪車に乗って遊んだことも、思い出せば胸が熱くなるような良い思い出です。

このような思い出は、今でも私の糧になっています。附小はやりたいことを思う存分出来る学校です。何か望めば、それを掴むチャンスがある。こんな素晴らしい事はありません。今、私はクラブや委員会、授業にて積極的に関わり、充実した毎日を過ごしています。今のような毎日が過ごせるのは、附小で、充実することの素晴らしさを学んだからでしょう。

附小があつて今の私がいる。附小での先生方、友達との出会いに、そしてなにより附小が母校であることに深く深く感謝を述べたいと思います。



温かな涙

平成18年卒
田島史保子

今、私はこの文章を書きながら、130年という長い歴史の重みをひしひしと実感しています。その中の6年間、学校の歴史に比べれば20分の1にも満たない年月しか過ごませんでしたが、附小で過ごした楽しかった日々は、今この瞬間も私の土台となって内からしっかりと支えてくれています。

私は本当に泣き虫でした。今思い返してみると、ことあるごとに泣いていたと思います。その涙は、悲しい涙や悔しい涙ばかりではなく、嬉し涙や笑い泣きしたこともたくさんありました。その中でも一つ、今でも忘れない涙があります。

当時は四年生、学芸会前日の昼休みのことです。私は翌日の劇で主人公を演じることになっていて、その劇もほぼ完成し、いつも通りクラスのみんなと外で走り回っていました。その時、すぐ近くで遊んでいた6年生のお兄さんとお互い走りながら正面衝突してしまったのです。とともに正面衝突したこともあり、保健室に着くころにはぶつかった左目はかなり腫れていて、少しあざも出来ていました。ひとまず私は5・6時間目を休み保健室で過ごすことになったのですが実はその2時間が学芸会本番前の最後の練習だったので。保健室のベッドの中で、「せっかく今まで頑張ってきたのにみんなに迷惑をかけてしまう」という申し訳なさでいっぱいでした。

知らず知らずの間に寝ていた私は、周りのざわざわした音で目覚めました。ゆっくり目を開けてみると、なんと先生とクラスのみんながわたしを囲んでいたのです。あまりにびっくりしすぎて言葉を失っていると、先生が言いました。

「おう、大丈夫か。この2時間な、ずっとみんな話し合っててんで。今までの立ち位置やったら、目の事が、目立ってしまうやろ。どうしたら目立てへんか、みんなずっと考えててくれててんで。」

それは、今までの立ち位置を丸ごと左右対称に移動させて演技するというものです。もちろんそれは一発本番で、練習など一度もない大勝負ですが、それをみんなが考えててくれて、やってみようと言ってくれたのです。感動やら感謝やらで、自然と涙が溢れました。それは私が「こんなにいい仲間を持て本当に幸せだ」と心底思えた瞬間でした。

私はこの涙を一生忘れないでしょう。今思い出してもこみ上げてくるものがあります。附小は、私にこのようなすばらしい仲間や先生、そして時間に出会いました。附小で過ごした日々があったからこそ今の私があるのです。これは数多くの先輩方、そして後輩たちと同じだと思います。たくさん泣き、たくさん笑った日々を暖かく包んでくれた附小は、いつまでも私たち一人一人の『家』として、私たちを迎えてくれることでしょう。



創る学校生活

平成13年卒
岡本 行勉

記念すべき附小創立130周年を身近にして、諸先輩と同じく思い出をしたためている120期生の私。この私を10年前の自分はどう見ているのでしょうか。「お前には荷が重過ぎる！」「自分の事を私って言うのって女の子みたいや！」などなど、馬鹿にするような笑いがパソコンに向かっていると後ろから聞こえてくる気がします。附小を卒業してからは、大人への階段を登るために少し背伸びをしながら、過去を振り返る余裕も無く前へ前へと進んできました。正直、附小での大事な6年間の記憶も、時と共に少しづつ薄れてきています。ただ、頭の中の記憶が薄れてきても、目の奥で広がる附小の風景は今でも鮮明に思い描く事が出来ます。何故でしょうか。ここで、みなさまと一緒に附小の校庭を散歩してみたいと思います。

まず何と言ってもお勧めの眺めは、道具のてっぺんから眺めるプール側に沈む夕日です。下校時間が早い為この景色は冬限定です。では夏の景色と言えば何だったでしょうか？そこはみなさまそれぞれの想像にお任せしたいと思います。もちろん20分間の授業の合間に休み、通称メリータイムも附小を語るうえで忘れてはならない存在です。教室で友達と騒ぎ合ったり、人目のつかない秘密の隠れ家でひそり遊んだりと、過ごし方は皆それぞれでした。ちなみに、120期生男子内でブレイクした遊びは壁球です。ルールは体育館前のちょっと広い校庭から体育館の壁に向かってボールを投げ、その跳ね返ったボールを取った人が勝ちと言うものです。みなさまの間にも流行った遊びが沢山あると思います。こうして考えると、新しい遊びを創り出す環境が附小には揃っていました。また、創る事で楽しみが広がる事を教えてくれたのも附小でした。

ただ、そこは小学生、創り上げたものが時に間違っていたときもありました。そんな時、良い事は良い、悪い事は悪いと広い心で叱って下さった先生方の存在は、今でも私にとって忘れる事の無い大切な存在です。

創る環境と、創る事を陰ながら支えてくれる先生方、そしてそれを包み込む附小の存在の大きさ。このような事は、卒業して初めて気付くものなのかもしれません。もちろん今も附小は、新しい発見を日々続けている小さな学生を暖かく見守っているのだろうと思います。130年経ってもなお進み続けるこの附小の卒業生として、恥じない人生を創っていくこうという気になるのも、やはり附小の大きさなのでしょうか。



附小の思い出

卒業生



僕の礎

平成16年卒
宇田 大祐

僕は中学1年の時に自分の宝物を紹介する機会があり、迷わず附小の卒業アルバムを紹介しました。僕は今でもアルバムを開くと、その時のその場面に戻ることができます。もう附小を卒業して4年も経ちますが、友達の笑い声や先生の顔が鮮明に浮かんできます。

附小の思い出は、普段の学校生活をはじめ、運動会、学芸会、そして宿泊行事などたくさんあります。その中でも臨海学舎が特に僕の心に残っています。僕は6年生の臨海学舎の時に、数日前から体調をくずしてしまい1日遅れて参加することになってしまいました。一緒に海で泳げなくてみんなより良い経験がひとつ減ってしまうことが残念でなりませんでした。でも友達との思い出を作りたい思いで、砂浜で水砂糖を配ったり、お茶を用意したりみんなを一生懸命応援しました。僕は友達が1000mを泳ぎきるのを見て自分のことのように嬉しい思い感動しました。見学とわかっていて参加させてもらったことをありがたく感じました。その後、学校のプールで1000mを泳がしてもらえることになりました。そのときに周りで見ていたみんなが、僕が泳ぎきるまでずっと応援してくれました。僕が1000mを泳ぎきれたのもみんなの応援があってのことだと思います。海での経験に勝るような嬉しい経験をさせてもらったことを感謝しています。

上で紹介した一例は僕の附小での経験の1つですが、その他にもたくさんの経験をつむことができました。そしてその附小での経験が僕にとってまさに自分の礎となっています。附小で出会い一緒に過ごした友達とは今でも学校を越えての付き合いを続けています。みんな背も高くなり声も変わりましたが、附小時代に戻ったかのように感じることができます。これも先生方の導きの中で6年間を通して、たくさんの行事と共に過ごし、友達と密に関わることができたおかげだと思っています。また、いつもどんなときでも卒業生を応援し続けてくださる先生方がいらっしゃることを感じています。僕はこの附小での仲間がいるから素晴らしい仲間が恥じないようにがんばっていけるし、僕の小さい時を知っている先生方が応援してくださるので、しっかり心と体を鍛え社会に役立つ人になるよう努力し続けたいと思っています。

最後になりましたが、附属天王寺小学校130周年おめでとうございます。附小の輝かしい歴史に劣らない卒業生でありたいと思います。

お元気ですか

近況報告 エ・ト・セ・ト・ラ



昨年寄せられた近況報告の中から掲載しています。年に一度の会報発行ですので、タイマーに報告出来ないのが残念です。

昭和4年卒
近者初衣(旧姓)庭山
九十才の卒業生
家族に守られ元気で過ごしております。

昭和4年卒
樋原隆雄
もうじき九十三才
めっきり体がなくなり、寝てることが増えました。

昭和4年卒
子供四人、孫九人、ひ孫四人のファミリーになりました。

昭和13年卒
松崎澤子
毎年、同窓会報を送っています。その都度「すぐに会員を納めなくては」と思いつつ、ついうつかりしまして…今年は創立一三〇周年。まことにおかげでどうござります。今こそ、お祝いの気持ちを込めて送らせていただきましたが、小学校の三分の二を天師の生徒でした事を誇りにしています。

昭和13年卒
大西英子(旧姓福井)
会員(同期生)が高齢になつたのを理由にして泊付同期会(泊なしも含めて)を開じて五年になります。私はそれに励まされながら、受け答えできるよう日々努めています。

昭和26年卒
高橋仁子(旧姓伊藤)
大阪市旭区で皮膚科クリニックを開業しています。

昭和56年卒
藤田圭以子(旧姓津田)
子供達五人(新小五男)、小四(女)、小三(男)、二才(女)、〇才(男)も少しづつ大きくなり、下の子の世話をしてくれるようになります。私も週に一回産科当直ができるようになります。頑張っているのは、私ではなく夫と三人の小学生たちです。

色とりどりの花が咲きほてる季節の平成十九年四月二十一日(土曜日)に、西心斎橋の「網元」にて、二十五年ぶりの同窓会を開催しました。六人の先生方をお招きしましたら、全員が参加して頂けたと思っております。今後は雑談会の、そして附天小の為にさら命し、一応務務は全させて頂けたと思っております。今後は松会の、十八年度PTA会長を拝命し、一応務務は全させて頂けたと思っております。今後共よろしくお願い致します。

上田倫子
何とか元気にしておりますので今年も会費をお收めいたします。私も満で七十七才になりました。平成十九年生になりました。平成十八年度PTA会長を拝命し、一応務務は全させて頂けたと思っております。今後は雑談会の、そして附天小の為にさら命し、一応務務は全させて頂けたと思っております。今後共よろしくお願い致します。

西村泰彦
小生の長男は附天小四年生になりました。平成十八年度PTA会長を拝命し、一応務務は全させて頂けたと思っております。今後は松会の、そして附天小の為にさら命し、一応務務は全させて頂けたと思っております。今後共よろしくお願い致します。

六人の恩師を迎える二十五年ぶりに大集合

89期生(昭和45年卒) 高畠 真理

同期会だより



つになり、校歌を歌い終えると、四十年前の小学生に戻った目を皆がしていたには感動しました。池田先生からは、先生の地元の河内の太子(聖徳太子ゆかりの地)のお話を、濱口先生はボランティアのリーダーとして日々お世話で奮闘中だと。原先生からは御自身で開催される個展のエピソード。そして木下先生は、大阪教育大学のラグビー部の顧問をされ、今も学生と走っておられる様子(目に浮かびました)など、先生方のパワーには脱帽! 楽しい春の夜は、そうして更けていきました。



昭和9年卒
大木通子(旧姓芝田)
人間の生命、基本的人権、平和の理想をかけらる「憲法」を軽んじる日本本の現状を思つと、生命を尊重しようという巻頭言を尊重しています。子供たちへの教育、よろしくお願いします。

昭和13年卒
牧田葉子
神無月中旬頃に、筝と尺八の蕭々たる韻で歌う「千の風になつて」のチヤリティをご案内申し上

昭和52年卒
谷口楨英
本年(平成十九年)より長男が入学し、偶然にも六年間一緒に学んだ同窓・井上剛君の長男と同

昭和50年卒
金銅英二
創立一三〇年おめでとうございます。大学で教鞭を取るようになり、改めて十二歳までの教育の重要性を痛感しております。自分は素晴らしい恩師、教育環境に恵まれたと附天小と両親に感謝の気持ちでいっぱいです。附天小の関係者の皆様、教官・職員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

昭和61年卒
小林記子(旧姓吉田)
六才と四才の息子の子育てに奮闘中です。

昭和61年卒
中村仁美
よいよ中3になりました。母校へもまだぜひ足を運びたいです。

平成19年度

年会費納入者氏名

(平成20年2月末現在・敬称略)

特別賛助会員

瀧藤 尊教・大西 英子・山本 瞳郎・松崎 澄子・伊海田 住子・足田 房子・松井子・伊藤 稔・片上 逸磨・深井 喜美子・辻本 順次郎・岸本 光正・渡辺 孝子・糸原和子・若山 由紀子・森村 雅嗣・宇陀優子・平田 健・内田 孝哉・赤尾 澄樹・川植 朗史・西村 泰彦・川本 雅行・川植 朋子・良峰 正雄・市原 孝浩

賛助会員

西島 實男・大井 正弘・岸本 卵一郎・三輪 一枝・高折 忠太・金剛 代子・前田 哲勇・酒井 康晴・勝又 朝昭・伊藤 欣一・柴田 俊治・塙田 節子・中川操・久野 晴二郎・山田 誠禮・秋田文・辰野 克彦・山根 勇・百山 妙子・山内 良介・酒井 一雄・村田 秀穂・吉川 計三・鈴木 曜子・秋田 光哉・平田 修一・芳武 努・瀬戸 知代・大西 浩一郎・石川 孝子・野口 牧紀・藏野 宏・坂田 尚英・松本 純美・石丸 淑恵・南野 美子・南野 太志・木村 安菜・田川 碩生・九鬼 ゆり・橋爪 佑莉

大正15年卒
佐藤 美紗子昭和2年卒
西島 實男昭和3年卒
芝山 篤次昭和4年卒
金者 初衣・柄原 隆雄昭和5年卒
藤田 夕ミ・河合 望子昭和6年卒
和泉 国夫昭和7年卒
大野 敏夫昭和8年卒
大井 正弘・大坂 芳文・矢島 幸子・鈴田 安子昭和9年卒
松岡 宏・大木 通子昭和10年卒
左谷 良藏・高折 忠太・山本 瞳郎・松島 永之助・小川 定子・堀田 朝子・今市 芳・吉田 トシ子・鶴尾 和子・黒田 麻友美・河内 液子・大道 喜久代昭和13年卒
金川 博武・小林 芳信・坂本 成男・岩崎 悅子・金剛 加代子・佐用 淳子・倉智 圓子・牧田 葉子・松崎 澄子昭和14年卒
関 行言・永田 文夫・橋本 肇二・前田 哲勇・菊池 富美子・坂部 蓮子・酒井 康晴昭和15年卒
加藤 光二・鈴木 洋子昭和16年卒
勝又 朝昭・庭山 昭・野島 晋・保呂 伸・門戸 良太郎・吉田 謙・新多 規志子・伊藤 利子・奥川 章子・田中 紗智子・田中 和子・山崎 典子・前川 昭子・松浦 百合子・武岡 慶三・橋本 文男昭和17年卒
茨木 修・金森 順次郎・黒田 節哉・柴田 稔・柴谷 一慶・鈴木 亨・木村

節・中西 妙子・伊藤 英子・荒川 和子・伊海田 住子・足田 房子・松井子・山田 美惠子・西島 瑞枝・森口 子・齊藤 邦子・岩澤 靖子

昭和18年卒
伊藤 一・柏井 輝一・久貴 忠彦・国正道・柴田 俊治・竹谷 武・村田新十郎・長野 秀保・川俣 玲子・菊野妙子・長尾 裕子・松井 慶子・綿谷 佳・近藤 光・野村 道一・上田 倫子・藤田栄子

昭和19年卒
伊加利 勝晤・荻原 一郎・片上 逸磨・斎藤 尚・塘 二郎・本間 琢也・道下徹・森口 五郎・塙田 節子・富地 美都子・田中 恵子・高久 美也子・藤田 美智子・中川 操・横山 清恵子・河井 達修一・芳武 努・瀬戸 知代・大西 浩一郎・石川 孝子・野口 牧紀・藏野 宏・坂田 尚英・松本 純美・石丸 淑恵・南野 美子・南野 太志・木村 安菜・田川 碩生・九鬼 ゆり・橋爪 佑莉

昭和20年卒
喜多山 徹・辻元 一郎・本郷 二郎・三宅 克彦・野島 精二・萬年 明子・岩田博一昭和21年卒
久野 晴二郎・永島 進・水野 稔・前島達也・野崎 博子・喜多井 須紀子・西村 友子・渡邊 昌子・森口 栄子・玉村 孝枝昭和22年卒
濱本 敏孝・浦谷 佳邦・駒 日出男・福岡 美彦・三木 忠・三宅 正彦・和爾越城・山田 誠禮・山田 誠禮・山本 正行・浅村 喜代子・師岡 織枝・石原 さよ子・和田 福藏昭和23年卒
五影 雄三・荻原 史恭・佐野川谷 保昌・森野 道男・山川 韶夫・山田 寛・山添 尚子・小富山 美美子・豊田 光子・禪 幸子・圓井 好子・田村 依久子・閑 淳一・峯川 啓・青木 康子
昭和24年卒
石川 一高・宝来 敏夫・河島 彦明・柴田 友義・深井 喜美子・細原 孝子・白川 知子・宮地 隆子・辻本 節子
昭和25年卒
岩田 由孝・高岡 伸一・国東 雅郎・杉本 欣三郎・増倉 一郎・三野 四郎・水口 幸子・上野 恵子・佐野川谷 大治・玉置 衡二・三木 愛子・寺田 尚子・中林 昌子・高千穂 和子
昭和26年卒
大久保 元三郎・城戸 義雄・木本 弘・森野 信征・高橋 仁子・丸岡 也・小枝 征子・栗谷 恒三・松井 朝・水谷 洋子
昭和27年卒
齊田 マリ・奥村 桂子・徳永 恵子
昭和28年卒
岡島 義之・楠瀬 暉・清水 宏真・西田俊介・山田 正夫・秋田 文・秋田 文・鈴木 美重・富田 和・植松 瞳子・奥村 寶亮・南 肇・吉田 耕・南佐起子・梅村 康順
昭和29年卒
辰野 克彦・高妻 武・松浦 弘・大西州子・田中 通子
昭和30年卒
辻本 雅一・山田 浩勝・岸本 光正・岡田 範子・吉田 和枝
昭和31年卒
北畠 英樹・内藤 雅敏・藤本 圭一・山口 宏子・梶井 敏旦・北野 公造・佐野川谷 勝利・鈴高 一善・曲田 秀男・大和 一夫・山根 勇・湯浅 楠次郎・武田勝年・石川 智子・石田 百合子
昭和32年卒
北沢 一記・渡辺 孝子・渡辺 孝子・武

◎平成19年度も多くの方々から年会費を納入していただきました。感謝申し上げます。

◎事務処理上、誤り・脱落もあるかと思います。お気付きの方は雑松会事務局までFAXにてご連絡ください。(FAX 06-6771-6116)

◎平成20年度の会費は別記の様になっております。重ねてご協力をお願いします。

藤 邦弘・安田 美津子・新田 長彦・若井 肥子

昭和33年卒
海野 道彦・糸原 和子・百山 妙子・本多 怜子
昭和34年卒
鈴木 啓介・岸本 泰廣・中川 忠彦・松下 恵造・森本 忠精・山内 良介・榎木 雅子・長尾 裕子・松井 慶子・綿谷 佳・近藤 光・野村 道一・上田 倫子・藤田 道子・八馬 加代子
昭和35年卒
葛村 安見・中尾 哲・森野 喜重郎・松崎 美惠子・里村 裕・住野 公一・田代 雅一
昭和36年卒
三上 修司・有岡 雅行・栗林 守夫・西川 雅夫・米津 精文・伊藤 泰子・岡本 明剛・曲田 誠克・宮田 宗一・吉田 順子
昭和37年卒
石原 義久・岸本 隆宣・宮前 雅明・吉川 建夫・宮本 恵子・鷹根 妙・三上 裕司
昭和38年卒
合本 慎介・花房 俊昭・石谷 隆子・大西 良和・尾尾 俊作・能勢 豊一・宮浦 徹・中山 真理子
昭和39年卒
酒井 一雄・深川 信・牧浦 信一・安田 一夫・佐伯 英隆・四宮 義久・辰野 守彦・堀井 昭成・曲田 勝紀・松嶋 由美子
昭和40年卒
江田 昌平・北尻 雅則・白江 淳郎・住野 泰士・村田 秀穂・山本 佳世子・生駒 昌夫・阪口 新太郎・若山 宏
昭和41年卒
松尾 厚・山本 博史・江見 昌久・吉村 盛吾・渡辺 敏史・三上 淑子
昭和42年卒
永原 寛夫・菊岡 明良・神野 典子・吉村 計三
昭和43年卒
昭和44年卒
昭和45年卒
昭和46年卒
昭和47年卒
昭和48年卒
昭和49年卒
昭和50年卒
昭和51年卒
昭和52年卒
昭和53年卒
昭和54年卒
昭和55年卒
昭和56年卒
昭和57年卒
昭和58年卒
昭和59年卒
昭和60年卒
昭和61年卒
昭和62年卒
昭和63年卒
昭和64年卒
昭和65年卒
昭和66年卒
昭和67年卒
昭和68年卒
昭和69年卒
昭和70年卒
昭和71年卒
昭和72年卒
昭和73年卒
昭和74年卒
昭和75年卒
昭和76年卒
昭和77年卒
昭和78年卒
昭和79年卒
昭和80年卒
昭和81年卒
昭和82年卒
昭和83年卒
昭和84年卒
昭和85年卒
昭和86年卒
昭和87年卒
昭和88年卒
昭和89年卒
昭和90年卒
昭和91年卒
昭和92年卒
昭和93年卒
昭和94年卒
昭和95年卒
昭和96年卒
昭和97年卒
昭和98年卒
昭和99年卒
昭和100年卒
昭和101年卒
昭和102年卒
昭和103年卒
昭和104年卒
昭和105年卒
昭和106年卒
昭和107年卒
昭和108年卒
昭和109年卒
昭和110年卒
昭和111年卒
昭和112年卒
昭和113年卒
昭和114年卒
昭和115年卒
昭和116年卒
昭和117年卒
昭和118年卒
昭和119年卒
昭和120年卒
昭和121年卒
昭和122年卒
昭和123年卒
昭和124年卒
昭和125年卒
昭和126年卒
昭和127年卒
昭和128年卒
昭和129年卒
昭和130年卒
昭和131年卒
昭和132年卒
昭和133年卒
昭和134年卒
昭和135年卒
昭和136年卒
昭和137年卒
昭和138年卒
昭和139年卒
昭和140年卒
昭和141年卒
昭和142年卒
昭和143年卒
昭和144年卒
昭和145年卒
昭和146年卒
昭和147年卒
昭和148年卒
昭和149年卒
昭和150年卒
昭和151年卒
昭和152年卒
昭和153年卒
昭和154年卒
昭和155年卒
昭和156年卒
昭和157年卒
昭和158年卒
昭和159年卒
昭和160年卒
昭和161年卒
昭和162年卒
昭和163年卒
昭和164年卒
昭和165年卒
昭和166年卒
昭和167年卒
昭和168年卒
昭和169年卒
昭和170年卒
昭和171年卒
昭和172年卒
昭和173年卒
昭和174年卒
昭和175年卒
昭和176年卒
昭和177年卒
昭和178年卒
昭和179年卒
昭和180年卒
昭和181年卒
昭和182年卒
昭和183年卒
昭和184年卒
昭和185年卒
昭和186年卒
昭和187年卒
昭和188年卒
昭和189年卒
昭和190年卒
昭和191年卒
昭和192年卒
昭和193年卒
昭和194年卒
昭和195年卒
昭和196年卒
昭和197年卒
昭和198年卒
昭和199年卒
昭和200年卒
昭和201年卒
昭和202年卒
昭和203年卒
昭和204年卒
昭和205年卒
昭和206年卒
昭和207年卒
昭和208年卒
昭和209年卒
昭和210年卒
昭和211年卒
昭和212年卒
昭和213年卒
昭和214年卒
昭和215年卒
昭和216年卒
昭和217年卒
昭和218年卒
昭和219年卒
昭和220年卒
昭和221年卒
昭和222年卒
昭和223年卒
昭和224年卒
昭和225年卒
昭和226年卒
昭和227年卒
昭和228年卒
昭和229年卒
昭和230年卒
昭和231年卒
昭和232年卒
昭和233年卒
昭和234年卒
昭和235年卒
昭和236年卒
昭和237年卒
昭和238年卒
昭和239年卒
昭和240年卒
昭和241年卒
昭和242年卒
昭和243年卒
昭和244年卒
昭和245年卒
昭和246年卒
昭和247年卒
昭和248年卒
昭和249年卒
昭和250年卒
昭和251年卒
昭和252年卒
昭和253年卒
昭和254年卒
昭和255年卒
昭和256年卒
昭和257年卒
昭和258年卒
昭和259年卒
昭和260年卒
昭和261年卒
昭和262年卒
昭和263年卒
昭和264年卒
昭和265年卒
昭和266年卒
昭和267年卒
昭和268年卒
昭和269年卒
昭和270年卒
昭和271年卒
昭和272年卒
昭和273年卒
昭和274年卒
昭和275年卒
昭和276年卒
昭和277年卒
昭和278年卒
昭和279年卒
昭和280年卒
昭和281年卒
昭和282年卒
昭和283年卒
昭和284年卒
昭和285年卒
昭和286年卒
昭和287年卒
昭和288年卒
昭和289年卒
昭和290年卒
昭和291年卒
昭和292年卒
昭和293年卒
昭和294年卒
昭和295年卒
昭和296年卒
昭和297年卒
昭和298年卒
昭和299年卒
昭和300年卒
昭和301年卒
昭和302年卒
昭和303年卒
昭和304年卒
昭和305年卒
昭和306年卒
昭和307年卒
昭和308年卒
昭和309年卒
昭和310年卒
昭和311年卒
昭和312年卒
昭和313年卒
昭和314年卒
昭和315年卒
昭和316年卒
昭和317年卒
昭和318年卒
昭和319年卒
昭和320年卒
昭和321年卒
昭和322年卒
昭和323年卒
昭和324年卒
昭和325年卒
昭和326年卒
昭和327年卒
昭和328年卒
昭和329年卒
昭和330年卒
昭和331年卒
昭和332年卒
昭和333年卒
昭和334年卒
昭和335年卒
昭和336年卒
昭和337年卒
昭和338年卒
昭和339年卒
昭和340年卒
昭和341年卒
昭和342年卒
昭和343年卒
昭和344年卒
昭和345年卒
昭和346年卒
昭和347年卒
昭和348年卒
昭和349年卒
昭和350年卒
昭和351年卒
昭和352年卒
昭和353年卒
昭和354年卒
昭和355年卒
昭和356年卒
昭和357年卒
昭和358年卒
昭和359年卒
昭和360年卒
昭和361年卒
昭和362年卒
昭和363年卒
昭和364年卒
昭和365年卒
昭和366年卒
昭和367年卒
昭和368年卒
昭和369年卒
昭和370年卒
昭和371年卒
昭和372年卒
昭和373年卒
昭和374年卒
昭和375年卒
昭和376年卒
昭和377年卒
昭和378年卒
昭和379年卒
昭和380年卒
昭和381年卒
昭和382年卒
昭和383年卒
昭和384年卒
昭和385年卒
昭和386年卒
昭和387年卒
昭和388年卒
昭和389年卒
昭和390年卒
昭和391年卒
昭和392年卒
昭和393年卒
昭和394年卒
昭和395年卒
昭和396年卒
昭和397年卒
昭和398年卒
昭和399年卒
昭和400年卒
昭和401年卒
昭和402年卒
昭和403年卒
昭和404年卒
昭和405年卒
昭和406年卒
昭和407年卒
昭和408年卒
昭和409年卒
昭和410年卒
昭和411年卒
昭和412年卒
昭和413年卒
昭和414年卒
昭和415年卒
昭和416年卒
昭和417年卒
昭和418年卒
昭和419年卒
昭和420年卒
昭和421年卒
昭和422年卒
昭和423年卒
昭和424年卒
昭和425年卒
昭和426年卒
昭和427年卒
昭和428年卒
昭和429年卒
昭和430年卒
昭和431年卒
昭和432年卒
昭和433年卒
昭和434年卒
昭和435年卒
昭和436年卒
昭和437年卒
昭和438年卒
昭和439年卒
昭和440年卒
昭和441年卒
昭和442年卒
昭和443年卒
昭和444年卒
昭和445年卒
昭和446年卒
昭和447年卒
昭和448年卒
昭和449年卒
昭和450年卒
昭和451年卒
昭和452年卒